

漫画「ちはやふる」で一躍ブームとなった、小倉百人一首。紫式部も「巡りあいて 見しやそれともわかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな」と詠んでいます。今回は、日本の文化を知り、新たなものに挑戦する機会として百人一首を子どもたちに伝えている、五色百人一首守山教室の溝口 佳成さん取材しました。

百人一首で真剣に遊んで めぐるのはチャレンジの名人

五色百人一首守山教室 溝口 佳成さん



20枚の札を前に向き合ひ合コンで子どもたち



五色百人一首守山教室の溝口 佳成さん

伝統文学の百人一首を
学びと交流のツールに

古典文学はもはや異文化
チャレンジを楽しんで

コロナ禍の苦勞も
五色の夢につないで



守山教室の活動：①練習試合、②⑤五色百人一首 守山市大会、③和歌の意味を学ぶ、④ポッチャ

伝統文化（子ども教室）「五色百人一首 守山教室」は、毎月1回 河西公民館で活動しています。1月、令和5年度の集大成となる「五色百人一首 滋賀県守山市大会」が開かれました。

子どもどころから純粋に百人一首が好きだったという溝口さんの教室では、競技かるたのような迫力ある練習ばかりの活動だけではありません。和歌は四季折々の風景や心の機微を詠んだ歌です。和歌を詠む不思議なリズム感や節回しに、情景を思い浮かべたり歌の意味を知ったり、かるた取りでなくともたくさん魅力があります。

顔を合わせて同じ札を取り合う五色百人一首の教室は、コロナ禍の直撃を受けました。活動中止が長引いている間に、指導できる教師やスタッフも減ってしまいました。



守山教室の活動：①練習試合、②⑤五色百人一首 守山市大会、③和歌の意味を学ぶ、④ポッチャ

五色百人一首は、子どもたちが日本の伝統文化や古典文学に親しみやすくするために、青・桃・黄色・緑・橙の20枚ずつに色分けした百人一首（かるた）です。全国で、学校内だけでなく地域に教室を立ち上げ、社会活動の一翼を担う教師も出てきました。

平安時代の風景や独特の「ことば遊び」などは、現代の子どもたちにとって海外旅行と同じくらい大きな異文化への挑戦です。溝口さんが目指しているのは、子どもたちに「新しいものに挑戦する力」を育む教室です。

新春の守山市大会もスタッフが少なく、教室の中学生や卒業生に助けってもらいながら実施したそうです。伝統文化を守るためにも、子どもたちのためにも、教師や大人の間で五色百人一首が広がってほしいといっています。



守山教室の活動：①練習試合、②⑤五色百人一首 守山市大会、③和歌の意味を学ぶ、④ポッチャ

小学校教諭の溝口 佳成さんも児童の学びや親睦を深めるために五色百人一首を取り入れていました。そこで、子どもたちの反応に大きな手応えを感じ、8年前に実家のある守山で教室を開くことにしたそうです。

真剣にかるた取りをするのは活動の基本ですが、ほかに和歌の意味を勉強をしたり、日本舞踊で歌の意味を表現する「舞を楽しむ」なども最近では「二スポもりやま」とラボして、定期的にポッチャの体験もしています。

6月から始まる守山教室は、子どもが伝統文化の魅力にふれることを目的としています。いつか、子どもたちが大人になっても百人一首の魅力にふれて、次の世代へとつなげていくことを目指しています。子どもたちの笑顔と未来への夢が教室継続への原動力です」と話していました。



守山教室の活動：①練習試合、②⑤五色百人一首 守山市大会、③和歌の意味を学ぶ、④ポッチャ

もともと五色百人一首は、全国の教師で構成する団体が、学級で子どもたちに百人一首に親しんでもらえるよう考案したもので、授業や休み時間に取り入れている小学校なども多いそうです。全国で、学校内だけでなく地域に教室を立ち上げ、社会活動の一翼を担う教師も出てきました。

平安時代の風景や独特の「ことば遊び」などは、現代の子どもたちにとって海外旅行と同じくらい大きな異文化への挑戦です。溝口さんが目指しているのは、子どもたちに「新しいものに挑戦する力」を育む教室です。

顔を合わせて同じ札を取り合う五色百人一首の教室は、コロナ禍の直撃を受けました。活動中止が長引いている間に、指導できる教師やスタッフも減ってしまいました。

※小倉百人一首は、藤原定家が平安時代〜鎌倉時代初期の優れた歌人の百首を選び出したものといわれています。